

ていねいに旅するぜいたく

鳥取で大人のたのしみを

最近、「通」な旅人たちに人気がある鳥取。「ほこ」としたり、「ゆつたり」したりできる場所が、訪れる人の心を豊かにしてくれます。春に掲載した記事に続いて、今回は大人の楽しみが詰まった旅を紹介しましょう。

流れる空気が特上 さまざまな水の恵みに出合える

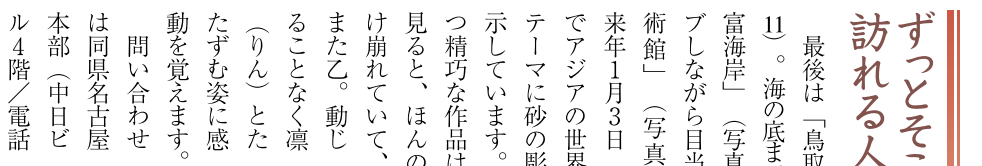
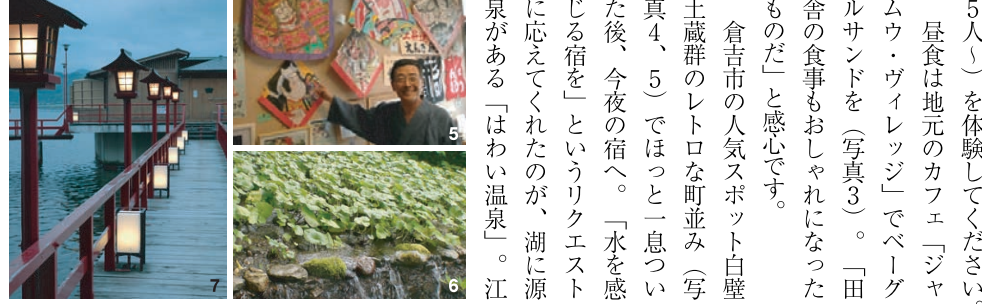


戸時代、沖合に出た漁師が竹ざおで湖底を突き刺したところ、突然湯が噴出し、楽しいのが始まりとか。この日の宿「望湖楼」（湯梨浜町）は、語らう姿が見られます（写真9）。湖上のお風呂（写真2、7）が特筆です。翌朝早起きをして、湖面から現れる朝日を露（写真8）も「通」な味です。

今回の旅は鳥取県中部・倉吉市から。まずは、西日本一の産出量を誇るワサビ田がある「清流遊Y0村」同様、市関金町、写真1、6を訪ねます。ワサビ田に近づく、次第に水気が濃くなります。

5人）を体験してください。朝食は地元のカフェ「ジャムウ・ヴィレッジ」でベークルサンドを（写真3）。「田舎の食事もおしゃれになったものだ」と感心です。倉吉市の人気スポット白壁土蔵群のレトロな町並み（写真4、5）でほっと一息ついた後、今夜の宿へ。「水を感じる宿」というリクエストに応えてくれたのが、湖に源泉がある「はわい温泉」。江戸時代、沖合に出た漁師が竹ざおで湖底を突き刺したところ、突然湯が噴出し、楽しいのが始まりとか。この日の宿「望湖楼」（湯梨浜町）は、語らう姿が見られます（写真9）。湖上のお風呂（写真2、7）が特筆です。翌朝早起きをして、湖面から現れる朝日を露（写真8）も「通」な味です。

ずつとそこにある風景が訪れる人の心を豊かにしてくれる。最後は「鳥取砂丘」（写真11）。海の底まで透き通る「浦富海岸」（写真12）をドライブしながら目当ての「砂の美術館」（写真10）へ。来年1月3日（土）までアジアの世界遺産をテーマに砂の彫刻を展示しています。壮大かつ精巧な作品は、よく見ると、ほんの少しだけ崩れていて、それがまた乙。動じることなく凜（りん）とたたずむ姿に感動を覚えます。問い合わせは同県名古屋本部（中日ビル4階／電話



倉吉市関金町産のわさび加工品やソーセージ、地酒の詰め合わせを3人にプレゼント。希望者は〒、住所、氏名、年齢、電話番号に、この記事の感想を添えてはかきかFAX(052・209・9372)で、〒460・0001 名古屋市中区三の丸1・5・2 中日ショッパー「わさびプレゼント係」まで。9月3日（水）必着。



◆鳥取へのアクセスは(倉吉市へ)◆
電車……JR名古屋駅から新幹線で姫路駅へ。スーパーはくとに乗り換えてJR倉吉駅へ。(約4時間)
車……小牧IC→名神高速道路→中国道→院庄IC→R179号→倉吉市街へ(総距離/約400km、約5時間30分)
飛行機……セントレアから米子空港へ。JRなどで倉吉市街へ(約2時間30分)

HPでもっと詳しい旅日記を公開中。http://shopper.chunichi.co.jp

石臼コーヒー

かつて抹茶を引いていた石臼(うす)をコーヒーに活用。粗挽(び)きにも細かくも好みで。砂糖とミルクの代わりに粒あんを入れる「石臼コーヒー」(500円)はまるやかで美味。久楽(倉吉市)電話0858・23・1130

日本初 砂たまご

ホクホク感が人気を呼び、鳥取砂丘の新名物になりました。「温泉卵の発想」で卵を250度の砂に埋めたら大正解。「ゆで」とは一味違います。3個入り330円。ふくむら特産品本舗(鳥取市)電話0857・74・3158

ふろしきまんじゅう

鳥取県では定番中の定番お菓子。黒砂糖と和三盆糖の上品な甘さが特徴です。素朴なおいさが「鳥取らしい」味。キャラクターも人気者です。8個入り450円。山本おたふく堂(琴浦町)電話0858・53・2345

寄り道おやつ

ぞうのハナ

浦富海岸(岩美町)の遊覧船乗り場(電話0857・73・1212)で見つけたイカ天おやつ。かわいい名前だけどイカスミ色で見た目はグロテスク。食べるには、少々勇気がいりますが、くせになるおいしさです。400円。